

# 見樹院ニュース

O T E R A N E W S

第69号 2016年11月3日発行

浄土宗 見樹院  
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03(3812)3711

FAX 03(3815)7951

Eメール: kenjuin@nam-mind.jp

Http://www.nam-mind.jp

《表町々会「一日だけの文化祭」協賛》

## 見樹院講談会のご案内

◆◇◆徳川家ゆかりのお話2題◆◇◆

見樹院の檀信徒総代をおつとめいただき、伽藍の再建にもご尽力いただいた、故名取亮(まこと)さんが、日本講談協会の最高顧問であったことから、施餓鬼法要で恒例となっておりました講談会を、2月の名取さんの追悼講談会の際に多数来場していただいた、地元表町々会からも、ぜひまたという声もあり、町会の文化祭に合わせて秋の行事として開催いたします。

なお、初回からご公演いただき、一昨年より病氣療養中だった神田陽司師匠も、追悼講談会直後の2月18日にご逝去されました。当日、皆様とともにご冥福をお祈りいたしたいと思っております。

### ■公演プログラム

#### 1. 名君と名奉行 (神田山吹さん)

好き放題だった後の江戸8代将軍・徳川吉宗が、後の大岡越前に厳しく諫められたことで改心し、人々から好まれ後世にも名を残す将軍になった、というお話。

#### 2. 桂昌院 (神田 紅さん)

八百屋の娘が、ルックスの悪さを性格の良さでカバーし幼い頃から皆に可愛がられ、のちに將軍家光の寵愛を得て五代将軍綱吉を生み歴史に名を残した桂昌院の出世物語。

■日時: 11月13日(日)  
午前11時~正午

■会場: 見樹院本堂

■入場無料、どなたでもご参加いただけます

### ■出演者プロフィール

#### ☆神田山吹さん

さいたま市出身。平成6年二代目神田山陽に入門、芸名エリ。平成11年二つ目昇進、芸名をエリから山吹に改名。山陽他界後、神田松鯉に師事。平成18年真打昇進。「あなたの隣の講談師」をモットーに親しみやすい講談を展開中!

#### ☆神田 紅さん

福岡市出身。早稲田大学商学部中退。文学座付属演劇研究所を経て、昭和54年二代目神田山陽門下となる。平成元年真打昇進。古典と新作、どちらも紅流に楽しく分かりやすく語ります!東京と福岡に講談教室開催中。ホームページ「神田紅の世界」  
<http://kandakurenai.com/>

◇表町「一日だけの文化祭」◇ ◇平成28年11月13日(日曜日)◇

◆ 講談会 … 午前11時~正午

会場: 見樹院本堂

◆ 作品展示 … 午前10時~午後5時

会場: 見樹院集会室

◆ 音楽ライブ … 午後2時~午後6時

会場: 真珠院(法蔵院の反対隣)集会室

# いのちと未来のシアター見樹院 住職関係団体企画ご案内

新国際エンゲージドブディズム研究会

## つながりを取り戻す

～疎外感・無関心に対応する仏教的エンパワーメント



日時：11月18日（金）18:30～

18:30 ジョアンナ・メイシー「プレート・ターニング（伏転換）」上映

19:00 ゲスト講演

19:30 質問とフリートーク

20:30 終了予定

会場：見樹院 本堂

米国の仏教哲学者で社会活動家であるジョアンナ・メイシーさんが仏教、一般システム理論、ディープ・エコロジーをもとに、50年以上に及び平和、社会的公正、環境分野における活動家としての経験とそれらの学識を統合して作り上げた「つながりを取り戻すワーク」を紹介します。

ゲスト：齊藤由香さん

活動家・翻訳家・通訳・ワークショップファシリテーター。2009年立命館大学応用人間科学研究科修士課程修了。米国の平和・環境・社会正義運動に関わるとともに、関連書籍および映像の日本語翻訳を積極的に行う。2011年より米国の仏教哲学者で社会活動家であるジョアンナ・メイシーに師事し、2014年以降は彼女が生んだ「つながりを取り戻すワーク」のワークショップを日本で開催。社会的不正、環境問題、平和など世界が抱える数多くの問題に対する個人の気づきをうながし、能動的に行動を起こすための手法を広めている。ジョアンナ・メイシーと同じく米国カリフォルニア州のバークレーに在住。

リー・シャルジャスティス基金 アドボカシーカフェ第47回

## 3.11 後の子どもと健康

～学校と保健室は何かできるか

日時：11月19日（土）13:00～

会場：見樹院 本堂

「3.11を体験した私たちが、これまでと同じような子どもへの関わりでいいの？」

これは、宮城県のある中学校の養護教諭の言葉です。2011年3月11日、東京電力福島第一原発事故が起き、東北から関東の幅広い地域に放射性物質が拡散しました。低線量の放射線被ばくによる健康への影響は看過されがちですが、チェルノブイリの事例が示すように、長い年月が経過した後にも顕在化します。とくに子どもに現れるさまざまな変調は、いち早く察知し対処する必要があります。それぞれの地域や学校では放射線被ばくから子どもを守るために独自の取り組みがなされているようですが、普遍化はしていません。

宮城県の大崎地区には、自分たちができることは何かと探りながら、子どもたちの健康状態を回復させ、被災した子どもたちを守る取り組みをしている養護教諭たちがいます。今回ゲストに大崎市立の小学校の養護教諭、松田智恵子さんをお迎えし、みなさんの地域や学校で子どもたちの健康を守っていくためにどう連携したらいいのか一緒に考えます。原発事故から5年経ち、まさにこれから。実践例から学び対話する場へ、ぜひご参加ください。

基調講演：大谷尚子さん

養護実践研究センター代表、元聖母大学教授、茨城大学名誉教授。東京大学医学部保健学科卒業。日本養護教諭教育学会、日本学校健康相談学会などの設立にかかわる。長年、養護教諭の養成にたずさわって「養護学」の構築に力を尽くしてきた。著書に『あなたが大変』の伝えかた一保健室と養護学からのヒント』（2016年4月）ほか多数。

ゲスト：松田智恵子さん

1984年より宮城県公立小中学校養護教諭。医療被曝やチェルノブイリ事故の健康影響について不安を感じ、啓発カレンダーや関連書籍を提示するなどの保健室経営を行っていた。2011年の福島第一原発事故後、居住地や職場地域での汚染の現実に直面し、児童や保護者への情報提供の必要性を痛感する。地域の教育研修活動で放射能問題をテーマにした講演会や学習会の開催と、市民活動に参加し地域の除染や食品汚染測定、健康調査等の課題の学習や交流に取り組み、保健だよりや健康相談を通しての実践指導への活用を模索中。

参加費：一般1000円/学生500円